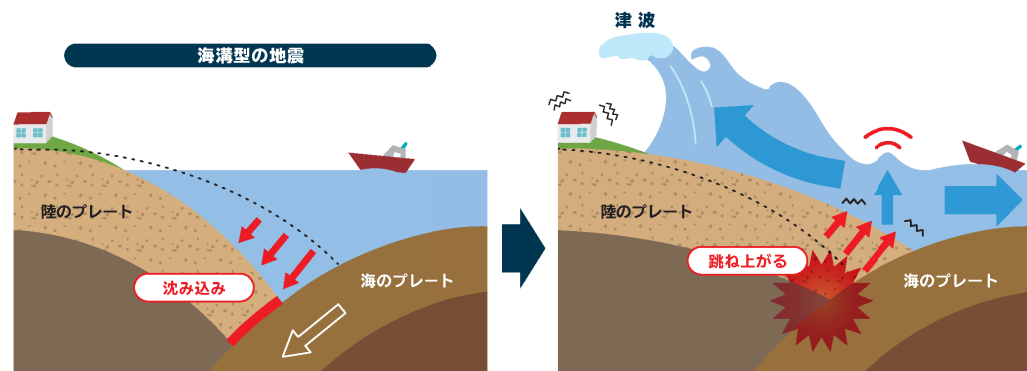


津波について



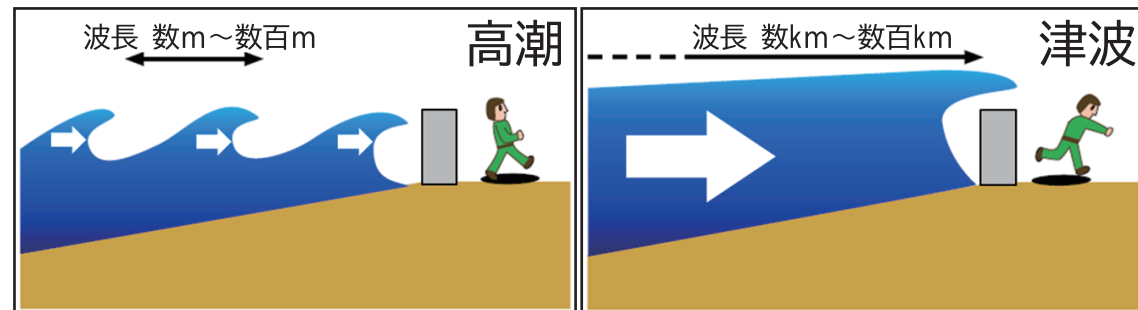
地震が起きると、震源付近では地面が持ち上げられたり、押し下げられたりします。地震が海域で発生し、震源が海底下の浅いところにあると、海底面の上下の変化は、海底から海面までの海水全体を動かし、海面も上下に変化します。

このようにもたらされた海水の変化が周りに波として広がっていく現象が津波です。



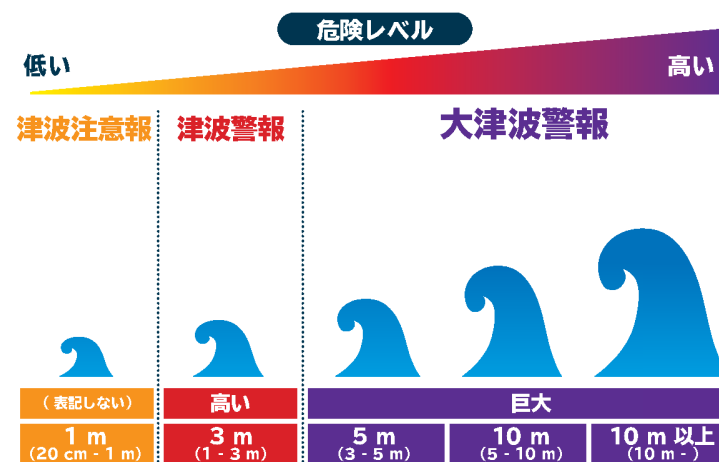
高潮と津波の違いとは？

高潮と津波の違いは、高潮が海水面付近の水位の変動であるのに対し、津波は海水全体が移動します。そのため、津波は高潮に比べてはるかに大きな破壊エネルギーを持っています。



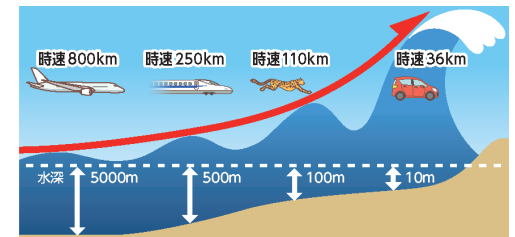
気象庁は、地震が発生した時には地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約3分を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。

ただし、地震の規模(マグニチュード)が8を超えるような巨大地震に対しては、津波の推定がすぐにできないため、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

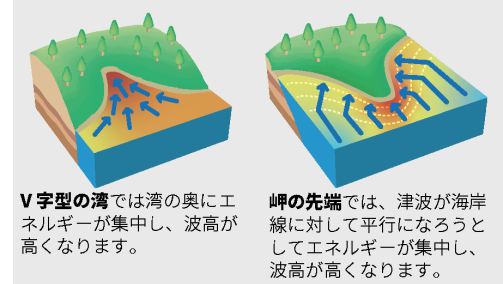


津波時の避難行動

- 車を利用した場合、渋滞などにより円滑に避難できない場合があります。原則、徒歩で避難しましょう。
- 津波はとても速いので、津波を見てから逃げたのでは間に合いません。津波警報等が発表されたら、ただちに避難しましょう。
- 津波は沿岸に近づき、水深が浅くなるにつれ急激に高くなります。より高いところを目指して逃げましょう。
- 津波の力は非常に強く、50cm程度の津波であっても、立ってられず流されてしまいます。
- 周辺の地形により反射や屈折を経て繰り返し襲ってきます。後から来る津波のほうが高くなることもあります。津波警報等が出ている間は絶対に戻ってはいけません。



地形による津波の増幅の例



※2011年に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)では、従来の想定を上回る巨大な津波が発生し、東日本一帯の沿岸部に甚大な被害をもたらしました。相生市における津波被害想定は一部区域に限られていますが、想定外の巨大津波はいつ起こるか予測ができません。津波から身を守るためには、できるだけ海岸から遠く、高いところへ迅速に避難することが重要になります。



津波の高さと被害の程度を目安

津波の高さ ▶	1m	2m	4m	8m	16m	32m
養殖いかだ	被害発生					
漁船	被害発生		被害率50%		被害率100%	
防潮林	被害 ▶	被害軽微		部分的被害		全面的被害
	効果 ▶	津波軽減・漂流物阻止		漂流物阻止		無効果
木造家屋	部分的破壊		全面破壊			
石造家屋	持ちこたえる			全面破壊		
鉄筋コンクリートビル	持ちこたえる					全面破壊

相生市における津波の高さ 最大2.8m